



目指す子ども像の実現に向けて！～子どもと教職員が意識し続けるための工夫～

©岡山県「ももっち」

湊城南小学校では、目指す子ども像の実現に向けて、子ども教師も一丸となって頑張っています。今号では、学校生活の様々な場面における「子どもと教職員が意識を継続するための工夫」を紹介します。

子どもが学校教育目標を意識し続けるために…

【能代市立湊城南小学校 学校教育目標】
夢に向かってともに輝く 南っ子
～輝くためにR6「挑戦」～



2学期の始業式で問い掛ける

学校教育目標のキーワードである「挑戦」について、2学期の始業式で、校長先生から子どもたちに「**挑戦することに意味はあるのか？**」との問いかけがありました。このことにより、改めて子どもたちは「挑戦する意味」を捉え直すことになりました(右図)。

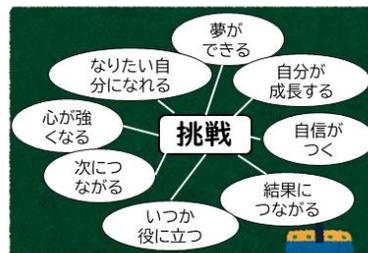


図 子どもたちが考えた「挑戦することの意味」

学校行事で振り返る

運動会や避難訓練等の学校行事においても、「**挑戦できたか、何に挑戦しようとしたか**」などについて、子どもたちが自分の思いを互いに伝え合う場面を意図的に設け、振り返らせています。

日々の授業で、働き掛ける

授業では、教師が「発表に挑戦できているかな？」や「ナイスチャレンジ!」と声掛けをしています。また、授業の振り返りに、「**今日の授業で挑戦したかどうか**」「**次は何に挑戦したいか**」などの視点を含めることで、次の学びにつなげられるように意識しています。

アンケート結果を子どもと共有する

学校評価や保護者アンケートにおける「**お子さんは、苦手なことでも前向きに挑戦しようとしていますか。**」の結果を子どもたちと共有し、更に高めるためにはどうしたらよいかを子どもと共に考えています。

教職員が学校教育目標を意識し続けるために…

「校長便り」で、教職員の取組を価値付ける

校長先生が大切に思っていることを、**職員会議等で配付される「校長便り」を通して、教職員と共有**しています。

便りには、校長先生が授業参観で見取った教職員のよさや、効果的な子どもへの対応、言葉掛けなどが具体的に書かれています。

他の先生の指導法や教育観を知り、互いに尊重し合いながら「**挑戦し、本気で学び合う子ども**」を育てるために、教職員が協働しています。



図 校長便り「舎短取長」



学校経営を行ううえで、**1年間、1ヶ月、1週間ごとの3種類のスパンドPCDAサイクルを回す**ことを意識しています。

校長便りは、先生方のよさや改善が必要な点について共有し、チーム力の向上を図ることをめざしています。よさを発信することで、先生方の有用感が醸成することも意図しています。大人だって褒められたらうれしいですね。

湊城南小の工夫を間近で見て、「目指す子ども像」の実現に向けた評価・改善サイクルが効果的に回っていると実感しています。特に、前期学校評価アンケートの結果を踏まえ、年度途中でもすぐに改善したことや、11月の段階で子どもの強み弱みを明らかにし、次年度への準備がすでに進められていることに驚きを感じました。



山田指導教諭